

業務提携を締結

資本業務提携契約を締結した。コンクリート製品事業の緊密な提携を行い、強固な競争基盤を確立するとともに、企業価値を最大化する目的。資本提携に伴い、4社は旭コンクリート工業の筆頭株主となり、旭コンクリート工業の持ち分法適用子会社となる。今後、業

84 くといい。日本ヒュームグループは1925(大正14)年の創業以来、下水道事業や道路整備事業、住宅建設事業などを推進するた

め、ヒューム管・既製コンクリート杭などを供給してきた。近年は、主に中国や東南アジアにおいて国際事業を展開し、新たな成長基盤の確立に注力するとともに、下水道の診断・リニューアル、不動産・環境関連事業など新しい分野へ事業領域

道路用コンクリート製品	出荷在庫	223,848ト	(96.2)
プレストレストコンクリート製品	生産出荷	58,774ト	(94.2)
	在庫	61,804ト	(114.0)
	生産出荷	127,643ト	(115.8)
気泡コンクリート製品	生産出荷	154,203m	(102.4)
	在庫	148,568m	(97.3)
	生産出荷	70,519m	(129.1)

注) カッコ内は前年同月比%。

PC製品のみ出荷が増加

7月の業建統計

経済産業省がまとめた業建・建材統計速報によると、7月のセメント二次製品の出荷はプレストレストコンクリート製品を除く6品目で前年同月に比べて減少となった。プレストレストコンクリート製品は14.0%の増加。減少幅の大きいもの

は、遠心力鉄筋コンクリート管(23.6%減)、遠心力鉄筋コンクリートポール(11.1%減)となっている。生産では、5品目で前年同月を下回った。護岸用コンクリートブロック(15.0%減)、遠心力鉄筋コンクリートポール(11.9%減)、遠心力鉄筋コンクリートパイ

大和クレス「スラットと側溝」初採用 露出少なくて景観向上

大和クレス(岡山県岡山市、林壮治社長)が開発したスリット付自由勾配側溝「スラットと側溝」がこのほど初採用された。採用されたのは国土交通省福山河川国道事務所発注の福山管内歩道整備外工事。広島県三原市のJR山陽本線糸崎駅付近の道路で、約270m施工された。同社では今後も積極的な営業展開に努めていく。

同製品は、側溝天端の露出が少なくコンクリート部分が隠れる構造のため、施工後は道路面が広く見え、景観性に優れているのが特長。露出面の幅は150cm。左天端に切欠きを設けて100cmにすることもできる。インバートコンクリート打設用開口を設けているので、インバート施工も容易に行うことができ、開口部の蓋には排水用スリットを設けており、排水性舗装から流入する雨水を側溝内に誘導する。また、蓋は舗装に覆われているため、蓋のは、遠心力鉄筋コンクリート管(23.6%減)、遠心力鉄筋コンクリートポール(11.1%減)となっている。生産では、5品目で前年同月を下回った。護岸用コンクリートブロック(15.0%減)、遠心力鉄筋コンクリートポール(11.9%減)、遠心力鉄筋コンクリートパイ



スラットと側溝の施工状況



美建工業 社長 高田 建浩

柱で事業展開している美建工業では、13年度、消費増税の駆け込

反動減が大きくなる

都市高速道路建設工事の反動減が大きい。道路用製品が堅調だったが、「広島県や島根県ではアベノミクス効果があったとは感じられなかった」と高田

跳ね上がりやカタツキによる騒音も発生しない。側溝には表面排水用スリットを設けており、連続的に排水処理ができることから水たまりや水はねを抑制している。そのため、自転車専用レーンを設置する道路では路肩の勾配や滑りを心配することなく快適な通行が可能。側面は凹凸がないシン



中村英夫選考委員長(中)から表彰状を授与された矢野明正会長(右)と石川重規氏(左)

防草ブロックが受賞

全国防草ブロック工業会(矢野明正会長)の防草ブロック技術が、このほど第16回国土技術開発賞の選考委員会委員長表彰を受けた。同賞は国土技術研究センターが、建設分野における技術開発者に対する研究開発意欲の高揚と建設技術水準の向上を図る目的で、建設分野における優れた新技

術「防草ブロック」が、建設分野における優れた新技術として表彰された。授与された。受賞テーマは「植物の特性を利用した防草技術」。植物は夏場の成長が早く、歩車道境界ブロックなどの隙間から生えた雑草などは草刈りをして根が残っている限り成長を続け、国や県市町村などの道路管理者に労力や費用面で大きく負担となっている。同技術は、製品の目地形状を工夫したコンクリートブロック(防草ブロック)を道路の歩車道境界などに使用するもの。ブロックの目地構造は植物の本来の成長方向と逆向きになるように作られており、成長ホルモンのバランスが崩れた植物は自ら成長を止めて死滅する。これにより、草刈り

日本興業は「ガーデン写真コンテスト」を開催する。施工店やハウスメーカー、設計事務所などの設計・施工関係者を対象としたクリエイター部門のほか、今年度から使用製品の規定を設けない一般部門を創設した。クリエイター部門は、ガーデン製品と積材材、敷き材製品の2つに分かれており、それぞれ同社製品を使用した現場が対象となる。応募期間は11月30日まで。

結果は15年1月16日に